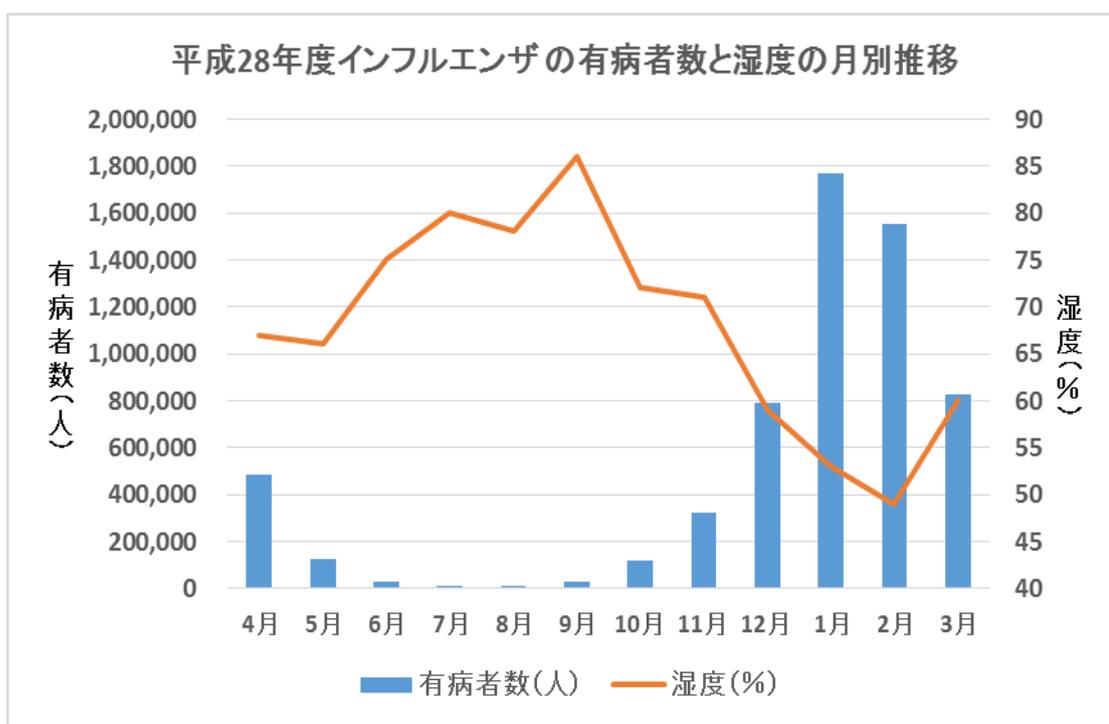


インフルエンザ有病者数：湿度が低い冬季で増加

環境・健康

平成28年度のインフルエンザの有病者数と湿度の月別推移を下記の図に示しました。インフルエンザの有病者数は、平均的に湿度が低くなる冬季で多く、湿度が高くなる夏季で少なくなっています。冬の風邪の代表格である流行性感冒の病原であるインフルエンザウイルスは、湿度が低い（乾燥する）ほど活性力が増加します。

また、空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60％）を保つことも効果的です。



有病者数：健保連 平成28年度 かぜ（感冒）、インフルエンザ等季節性疾患（入院外）の動向に関するレポート
 月別湿度：気象庁 過去の気象データ 相対湿度の月平均（東京）

kes サポート

目的	課題	kesサポート
把握	事務所等の作業環境の状況	作業環境測定
	供給空気の清浄度	供給空気の清浄度測定
改善	事務所等の作業環境の改善	作業環境関連設備の改善、設置
教育	労働衛生意識の向上	労働衛生教育